

2016年03月06日

HUFF  
POST SOCIETY -社会-

## 「チバニアン」とは？ 地球の歴史に"千葉時代"が誕生か

The Huffington Post | 執筆者：Chitose Wada

投稿日：2016年03月05日 20時27分 JST | 更新：2016年03月05日 20時28分 JST



馳浩文部科学相は3月5日、千葉県市原市にある約77万年前の地層を視察した。この地層は今後、国際学会によって、ラテン語で“千葉時代”を意味する「チバニアン」と名付けられる可能性があるという。NHKニュースなどが報じた。

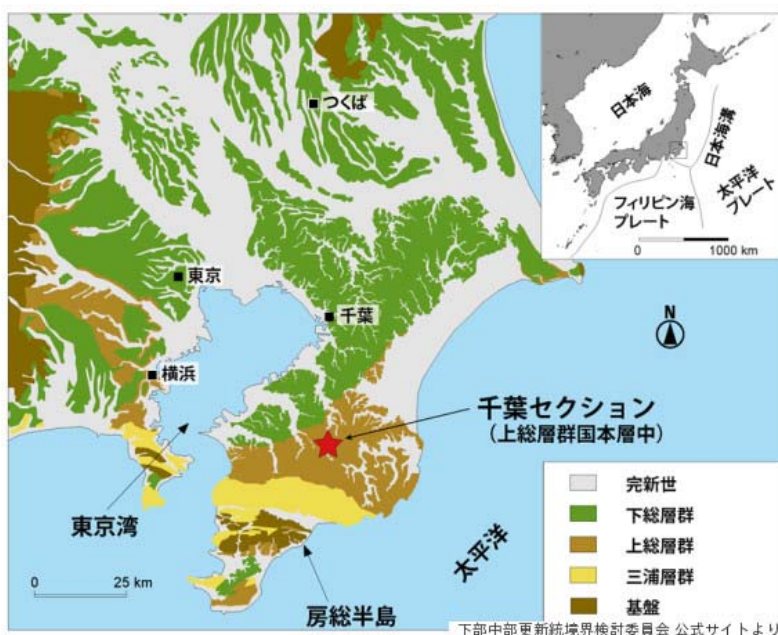
### ■何がスゴイの？

46億年の長い地球の歴史には、恐竜絶滅といった大きな変化がみられたところを境に、「ジュラ紀」や「白亜紀」などの時代区分がされている。これらの区分は地層と化石の研究から名づけられたもので、ジュラ紀はアンモナイトや爬虫類が栄え、大形恐竜や始祖鳥が出現した時代だが、この時代の地層が発達しているフランス～スイスに広がる「ジュラ山脈」から名付けられた。同様に、白亜紀は、アンモナイト・恐竜などが大繁栄した時代で、イギリスとフランスの間のドーバー海峡地域のチョーク（白亜）を含む地層から命名された。

このような「ジュラ紀」や「白亜紀」などの固有の名称で呼ばれる地層が、特徴的に分布する地域を「模式地」（もしきち）と呼ぶ。今回注目されているのは、模式地として千葉が選ばれるかどうかという点だ。

### ■「チバニアン」の特徴は？

朝日新聞デジタルによると、注目されているのは、市原市田淵の養老川沿いにある「千葉セクション」と呼ばれる地層。地質学上「更新世」と呼ばれる時代の前期と中期の境目で、地球の磁場のN極とS極が最後に逆転した重要な節目とされる。



地球では、過去に何度も磁場が逆転する現象が起きているが、逆転は一気に起こるわけではなく、逆転したり戻ったりと不安定な変化を経て安定するとされる。約77万年前の磁場逆転の時期も、田淵にはオーロラが頭上から注ぎ、渡り鳥などの飛来はなかったと推定され、地球環境が急変していた。新人類が現れたのも、この時期だという。

## ■今後の流れは？

「チバニアン」は認められるのか。審査を行うのはユネスコの機関である国際地質科学連合（IUGS）で、認定されれば、模式層断面となる箇所に「ゴールデンスパイク」が表示される。

ライバルとなっているのは、イタリア南部のモンテルパノ・イオニコと、ピラ・デ・マルシェ。夏に南アフリカのケープタウンで開かれる万国地質学会議で、選定が行われる予定だ。



## ▼クリックするとスライドショーが開きます▼

 NASAが選んだ、2015年の美しい地球15選 1 / 16 < >



Earth Science and Remote Sensing Unit, NASA Johnson Space Center



## 【関連記事】

- [熱流が磁場で変わる現象を理論で解明 | サイエンスポータル](#)
- [NASAの「火星における重大な科学的発見」を予想する | クラムシ博士・堀川大樹](#)
- [砂浜もあれば山脈もある 冥王星はミステリアス \(画像\)](#)
- [太陽の磁場が完全反転へ 太陽系全体に「さざなみ効果」](#)
- [「太陽に元気がない」地球寒冷化の予兆？ 太陽の磁場に異変](#)

ハフィントンポスト日本版は[Twitter](#)でも情報発信しています。

[@HuffPostJapan](#)さんをフォロー

石垣シーサイドホテル

+ 航空券

予約する

ホテルイーストチャイナシー

+ 航空券

予約する